

復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業 平成28年度東北大学研修が実施されました

平成28年7月23日（土）、『復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業』の一環として、東北大学研修を実施しました。本研修は、東北大学高度教養教育・学生支援機構と本校の教育連携協定に基づいて昨年度スタートし、今年度は1学年全員に加えて、グローバルリーダー部の2学年生徒が参加しました。生徒の感想からもわかるように、大学の充実した設備や環境、またそこで行われている世界最高水準の教育・研究に触れたことで、それぞれに学習意欲や進路意識を喚起され、有意義な時間を過ごすことができました。



場所：東北大学 川内北キャンパス 講義棟 A 棟

当日の日程は以下のとおりです。

<p>第1学年</p> <p>10：20～10：30 大学紹介 高度教養教育・学生支援機構長 花輪 公雄教授</p> <p>10：30～12：00 全体講義 『東北大学が考えるグローバル人材とは』 講師：グローバルラーニングセンター長 山口 昌弘教授</p> <p>12：00～13：00 大学食堂にて昼食</p> <p>13：00～14：30 分科会</p>	<p>第2学年 GL 部</p> <p>10：30～12：00 講義 『感想文から論文へ：出典明記の意義と方法』 講師：高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門 高等教育開発室 串本 剛 准教授</p> <p>12：00～13：00 大学食堂にて昼食</p> <p>13：00～14：30 代表生徒によるプレゼンテーション および講師による指導・助言</p>
---	--

高度教養教育・学生支援機構長で東北大学理事の花輪公雄教授による大学紹介



第1学年全体講義『東北大学の考えるグローバル人材とは』

講師：グローバルラーニングセンター長 山口 昌弘 教授



生徒の感想（抜粋）

- ・東北大学では海外との交流も活発なため、積極的に自分の意見を伝えることが必要で、そういった力を養っていく必要があるということが分かった。
- ・大学とはどのようなところなのか知ることができ、勉強になってよかった。グローバル化していく社会の中で、これから自分がどのような職業に就き、どのように生きていくか考える機会になった。
- ・東北大学が目指しているグローバルリーダーになるための要素の具体的な例を知ることができて、自分でも目標を立てるきっかけになりました。
- ・この講義を聞いて、グローバル化した社会で生きることが私たちの宿命であるとわかりました。そのために、「何も恐れなくて、毎日挑戦することが大切」ということが一番印象に残っています。
- ・グローバルな人には、英語力だけでなく、自分の強み、個性も必要であるということに少し驚きました。まずは「自分」を把握することからだなと思いました。

第1学年各分科会の様子

教育学部『世界を変える授業を体験しよう！—アクティビティを通じて考える復興と未来』

講師：谷口 和也准教授



生徒感想（抜粋）

- ・「貿易ゲーム」で実際に自分たちが国となって、商品生産の大変さや他国との連携の難しさを学んだ。また、50年後も福島県が幸せであるためにどのような発展をすべきなのか考えることができた。被災地である福島県のために、グローバルリーダーは必要不可欠だと思った。
- ・簡単だが世界を見る目が変わる興味深いゲームがあり、国や地域のことについて考えさせられた。「教育」だけでひとくりにせず、視野を広く持つことを学んだ。

経済学部『2060年の会津若松の社会と経済を将来予測！』

講師：吉田 浩 教授



生徒感想（抜粋）

- ・社会的な問題や政治、色々なことに経済が関わっていたことや、今の現象を予測することができるを知って、経済の重要性や面白さに気がついた。これからは、経済と政治の関わりについて、ニュースをよく見ていきたい。
- ・会津だけでなく日本全体や他の国々と比べることで、課題や、これからどんな政策をしたら人口減少や少子高齢化を防げるかなど、自分の力で考えることができたので、とてもためになりました。

工学部 『私たちの夢を宇宙へ飛ばそう～未知の世界を探索するロボットの開発』

講師：吉田 和哉 教授



生徒感想（抜粋）

- ・航空宇宙コースでは、大学生が自分たちで人工衛星を作ってそれをJAXAのロケットに積んでもらって打ち上げるなど、大きな企業でしかできないと思っていたことが大学生にできるということを聞いて驚いたし、興味が湧きました。「夢はいつか必ず叶うから、好きなことを将来まで好きでい続ける」という先生の言葉が印象に残りました。
- ・吉田教授の長い間やってきた取り組みがどんどん大きくなっていく様子をスライドで見せていただき、夢、自分たちの可能性の大きさを感じました。

工学部 『人間と環境の関係をデザインする—都市・建築学のすすめ』

講師：本江 正茂 准教授



生徒感想（抜粋）

- ・講座では特に「入口」がどのような役割をしているかについて話されました。生活をする上で必ず必要になってくる建物の入口が、どのような進化を経て今に至ったかなど、歴史的な部分も視野に入れた「入口」の存在価値がとても興味深かったです。
- ・より強いコンクリートを作るためには、コンクリートを壊し、その壊れ方を解析し、調整していくことを知り、作ることは壊すことから始まることに気がきました。また、作るのは人のためだから、人の心とも深く関わっていると知りました。

農学部 『“磯やけ”とは何か』

講師：吾妻 行雄 教授



生徒感想（抜粋）

- ・磯焼けを画像などを使いながら説明して下さり、わかりやすく楽しかった。磯焼けは自然の状態でも起きていたが、人間が乱獲することで元に戻っていたのが戻らなくなり、深刻化していることがわかり、気をつけていかなければならないなと思った。
- ・海中にある海藻などの植物は、陸上の植物よりも多くの酸素を生産していることに驚いた。その海藻をウニが食い荒らしてしまいなくなってしまうのは、地球温暖化が進む一つの理由ではないかと思った。

農学部 『伝統食品に見る食べ物を美味しくする智慧—故きを温ねて新しきを知る—』

講師：藤井 智幸 教授



生徒感想（抜粋）

- ・伝統的な食べ物やその作り方は、科学によって自然と確立されたものであるということに驚きました。鮭を例に取った説明で、理科の苦手な私でも興味深く感じました。
- ・食品がどの程度の濃度まで達すると微生物が住みやすいかとかカビが生えてくるかなど、日常生活にも役立つ話がおもしろかったです。
- ・水分の高い食べ物は腐りやすいので、保存するためには塩を入れたり、乾燥させて水分活性を小さくするという話は身近で、集中して聞くことができた。

環境科学研究科 『国際資源循環問題と日本の循環型社会形成』

講師：齋藤 優子 特任助教



生徒感想（抜粋）

- ・日本が抱えているゴミ問題と他の国が抱えている問題は違うが、全く関係ないことではなく、逆に深い関係性があることがわかった。日本から出たゴミが他国へ行き、正しく処理されずに残っているという。私たちは普段からゴミの分別、減量を心がけて行きたいと思った。
- ・今の日本、世界の資源の循環について、技術や対策方法の問題点の改善点を考えた。自身を何かのリーダーとしての話し合いは、自分の意見以外にもいろんな考えを聞いて楽しかった。

災害科学国際研究所 『被災者の健康を守るためのリーダーシップとは何か』

講師：江川 新一 教授



生徒感想（抜粋）

- ・障害を持っている人に対して、目が見えないと考えるのではなく、暗い中でも歩くことができるというふうに「～できる」と考えるのが大切と聞いたとき、違う視点で見ることの大切さを学んだと思った。
- ・今まで医療と災害を結びつけて考えたことがなかったので、とても新鮮でした。最後には、質問、感想の発表の時間もあって、とても身になる体験ができました。

東北アジア研究センター 『地球温暖化問題に関する私たちの選択』

講師：明日香 壽川 教授



生徒感想（抜粋）

- ・地球温暖化を肯定する人がいるということに驚いた。地球温暖化が進むことに於いて世界での利害が一致せず、対策が難しいらしく、人間の意志が解決の邪魔をしているというのが意外だった。地球温暖化が科学的な問題だけではないという事を知って少し不安になった。
- ・地球温暖化で異常気象とか環境への影響はニュースなどで知っていたけど、政治や戦争にまで影響しているのに驚いた。地球温暖化で得をする人や国があり、そのせいで複雑になっている現状を知り、考えることがたくさんあった。

ニュートリノ科学研究センター 『ニュートリノと宇宙』

講師：井上 邦雄 教授



生徒感想（抜粋）

- ・まだ人類に解明されていないことがとても多くあることが分かり、宇宙に興味を持つことができました。宇宙は広く、謎がたくさんあります。これからどのような発見があるか、楽しみです。
- ・ニュートリノとは何かということと、それに関する謎についてわかりやすく説明された。広大な宇宙と、非常に小さいニュートリノとの関係をもっと深く知りたくなった。
- ・ニュートリノを研究することで得られる多くのメリットや、日々どのような研究活動をしているのかがわかり、面白かった。

男女共同参画推進センター 『教育とジェンダー』

講師：保坂 雅子 助教



生徒感想（抜粋）

- ・この講座を受けて、女性の就職率や教育などについて深く学ぶことができた。この社会で生きていく上で、ジェンダーとはきちんと向き合って自分の生き方を決めていかななくてはいけないと思う。
- ・男女の教育機会、教育課程の差を学び、また海外と比べて日本はいまだに古い女性観が根強く残っていることがわかった。
- ・ジェンダーが教育を受ける上でどんな障害になるのか、今までは考えてこなかった問題について考えることができた。

平成28年度東北大学研修 第2学年 論文研修

1年次の課題発見、課題研究テーマの設定、問題解決へ向けた課題研究活動をさらに発展・深化させ、福島県の復興と未来に貢献し得る論文作成の実現を支援することを目的に、第2学年 GL 部の生徒を対象に論文研修を実施しました。研修は川内北キャンパス講義棟 A 棟 A307 教室で行われ、24 名の生徒が参加しました。

講師：高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門 高等教育開発室
串本 剛 准教授

午前の部 講義『感想文から論文へ―出典明記の意義と方法―』



午後の部 代表生徒によるプレゼンテーションおよび講師による指導・助言



生徒感想（抜粋）

・論文とは、仮説を立てて、それを論証するものだということがわかりました。半分以上が引用になってしまうと、それは報告書になってしまうとも言われて、あくまでも引用するものは自分の主張を証明するだけのものであって、自分の考えをメインにしなればいけないのだと感じました。論文を作るにはまず、問いとそれに対する答えを見つけ出さなければいけないので、様々な資料を集めて自分なりの答えを出していきたいと思います。

・自分が考えていたよりも、論文を書くためには一つ筋の通ったテーマとビジョンが見えていることが必要だと言うことに気がつきました。研修を受けるまでは「世界の歴史建築」に焦点を当てて論文を書こうと思っていましたが、問いと答えのお話を聞いてよく考えてみたら、自分が結果的にこのテーマでどんな答えを出そうとしていたのか分からずに取り組んでいたこと、テーマが大きすぎると調査するものまとめるのも難しいことに気がつきました。もう一度、テーマを絞って問いと答えを明確にすることから取り組もうと思います。

・論文がどのようなものか理解でき、とても良い経験になった。自分の今まで考えていた論文というのは本当は感想文や報告書であったと気づき、この夏休みでもう一度構想を考えたいと思った。最初の講義で色ペンを使って分ける作業は、どこまでを参考文献として書くのかや、引用した文の載せ方などとても難しいと思った。一方で、参考文献が論文にどれだけ重要なものかということがわかった。

・実際に自分が書いた論文を添削してみたら、全く論文とは言えないもので驚きました。論文と感想文の違いから引用するときの注意など今後の論文作成につながるお話ばかりで、これからの論文作成が楽しみです。テーマを決める方法や問いと答えの話を聞いて、本当に今のままのテーマでいいのか考え直すきっかけとなりました。

私は、テーマは決まっているが、そのテーマに対する問いが明確になっておらず、文献を読んだりインターネットでテーマについて調べたりしても、論文の全体構成が頭の中に浮かんでいませんでした。今回の研修で、「テーマ」「問い」「答え」の3つが論文には大切だと分かり、もう一度、今自分が作成している論文を見直して、論文と言えるものにしていきたいと思います。